

インフォームド・コンセントを受けない場合の研究内容の公表用基本フォーマット

情報公開の方法 以下のURLで公開する 倫理委員会のホームページで公開を希望

URL

承認番号	4012
研究課題名	バッドキアリ症候群における血管バルーン拡張術の治療効果予測因子についての後方視的研究
研究の意義・目的	日本で難病に指定された疾患の一つにバッドキアリ症候群がある。本疾患は下大静脈や肝静脈が閉塞するために、肝血流が鬱滞し、肝脾腫、食道胃静脈瘤、門脈圧亢進症、腹水、下肢浮腫、静脈怒張といった症状が出現し、最終的に肝不全の転帰を辿る難治性疾患である。近年その治療法として、血管内治療であるバルーン血管拡張術という手技が確立され、その安全性は認められている。しかし、治療によって臨床症状改善が得られない場合が存在する。術前の時点で、治療による臨床症状の改善が獲得できるかについて過去に検討された報告は皆無である。本研究では、当施設でバルーン血管拡張術を施行された症例を後方視的に検討し、その臨床データ、CT所見、血管造影所見から、治療効果予測因子を明らかにする。術前に治療効果予測が推測可能となれば、適切な患者選択が可能となり、重要な知見となる。
研究期間	承認後 ～ 2019年12月31日
研究対象者の範囲	2005年1月1日から2017年12月31日の間に大阪市立大学医学部附属病院放射線科で血液検査・CT検査・血管造影検査からバッドキアリ症候群と確定診断された患者様が対象です。
利用又は提供する試料・情報の項目	診療記録、CT画像、血管造影画像
利用者の範囲	<input checked="" type="checkbox"/> 自施設のみ <input type="checkbox"/> 共同研究機関に試料・情報を提供する <input type="checkbox"/> 共同研究機関から試料・情報の提供を受ける <input type="checkbox"/> 自施設が共同研究の代表施設である <input type="checkbox"/> 他施設が共同研究の代表施設である <input checked="" type="checkbox"/> 研究成果を公表する
研究機関の情報	該当なし
代表施設のURL	該当なし
研究成果を公表する方法	学会発表や論文にて公表予定である
試料・情報の提供方法	該当なし
試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	大阪市立大学医学部大学院医学研究科 放射線診断学・IVR学 影山 健
拒否機会の保障	本研究の対象者の方は、問い合わせ先に連絡することによっていつでも本研究への参加を拒否することができます。また、研究への参加を拒否されても、診療に関する不利益等を受けることは一切ありません。
拒否を受け付ける方法	影山 健 大阪市立大学医学部大学院医学研究科放射線診断学・IVR学 病院講師 大阪市阿倍野区旭町1-4-3 電話：06-6645-3831 FAX：06-6646-6655